

平成 29 年度 第2回立川市史編さん委員会 会議録

開催日時 平成 30 年 3 月 27 日（火） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 15 分

開催場所 リスルホール第 2 会議室

出席者 [委 員] 大友一雄 小坂克信 ◎白井哲哉 杉山章子 鈴木 功

豊泉喜一 ○檜崎茂彌 保坂一房

（◎委員長、○副委員長、五十音順、敬称略）

[事務局] 渡辺晶彦産業文化スポーツ部長 岡本珠緒地域文化課長

小川 始市史編さん担当主査 朝比奈新 清水裕介 鳥越多工摩

浪江健雄 藤野哲寛 森脇孝広 山下祐香理 岡部利和

傍聴者 なし

（事務局）開会に当たり、昨年 11 月に、近世の専門嘱託として、中谷に代わり浪江が着任したのでお知らせする。

1 立川市史編さん委員長あいさつ

（委員長）昨年 9 月に開催された第 6 回委員会から半年が経過し、この間進展したこともあるが、いろいろな課題も出てきている。当委員会は、昨年 9 月に第 2 期目に入り、市民委員の星委員の後任として小坂委員が出席しているので、自己紹介願いたい。

（委員）市内錦町五丁目に住んでいる。長年、小学校の教員をしていた。現在は定年退職し、国分寺市の榎戸水車の調査や日野用水 450 周年の資料作りに取り組んでいる。武蔵野台地の水利用ということで、玉川上水や分水、水車に関心がある。

2 専門部会活動報告及び活動予定（資料 1）

（事務局）先史部会の今年度下半期の活動では、まず竹内氏から寄贈された向郷遺跡出土資料の整理を行った。自然科学分析として、土器片の胎土分析を委託し、昨年 12 月に報告書が納品された。追加として、阿玉台式土器 3～5 点について、現在蛍光 X 線分析を行っている。これについては、5 月ないし 6 月に報告される予定である。また、土器片に植物の種子の痕跡が残っている場合があるので、そこにシリコンを注入してレプリカを作り、それをもとにして何の種子か分析する調査を委託した。これについては、大和田遺跡第一次、三次、四次調査出土資料も併せて行った。3 月 16 日に報告書が納品されたが、エゴマやダイズ、アズキなどが確認される成果が挙げられた。縄文土器の実測図のトレースも委託していたが、3 月 13 日に納品された。また、竹内資料や向郷遺跡第 12 次地点、第 15 次地点から出土した縄文土器の集合写真や展開写真の撮影を、写真家の小川忠博氏に依頼して行った。これらを合わせて、竹内資料の報告書を来年 3 月に発行するが、現在、それに向けた原稿執筆等を進めている。そのほか、大和田遺跡第一次、三次、四次調査出土資料についても、昨年 11 月頃から始めており、どういう形で報告するか検討しているところである。古墳の測量調査についても、2 か所、國學院大學文学部考古学研究室の協力を得て、無事終了した。古代の遺物については、古代・中世部会の担当であるが、大和田遺跡第一次、第三次、第四次調査から出土したものについては、國學院大學文学部考古学研究室の協力を得て

先史部会で調査を行った。実測図や観察表、事実記載等が終了したことから、明日、國學院大學から遺物を回収する。会議については、2月に部会を開催した。広報3月25日号には、考古資料に関する情報提供依頼を掲載した。来年度については、竹内資料の報告書の刊行に向けた作業や宮崎紘氏が報告した石器の実測や写真撮影、個人寄贈の石鏃の調査を行う。また、引き続き、大和田遺跡第一次、三次、四次調査出土資料の調査や資料編の刊行に向けた作業を進めていく。

(委員長) 竹内資料というのは、市民である竹内氏が早い時期に収集した向郷遺跡の遺物で、質、量ともに充実したものである。それらの分析と報告書に向けた作業が進んだ。市内では、これまで古墳と確定されたものはない。

(事務局) 古代・中世部会では、主に文書調査と石造物調査、所在調査を行った。文書調査は、あきる野市の郷土館と阿伎留神社で、戦国時代の古文書について調べた。石造物調査としては、普済寺の六面石幢について、写実実測を行った。今後、3D画像にして、報告書に掲載する予定である。資料の所在調査は、近世部会の調査に同行して進めてきたが、中世の資料は発見されていない。3月25日に部会会議を開催し、今後の予定を決めた。平成30年度は、平成31年度に発行する資料編に掲載する資料について、今年8月末までに確定し、活字入力作業を行い、分量を確定する。併行して、文書調査も進める。市外では、高幡不動尊やあきる野市内の文書調査を予定している。石造物調査では、国立市や昭島市の普済寺に関連する寺院で、板碑の調査を行う予定である。

(委員長) 古代・中世部会では、古文書と石造物の調査があるが、どちらも普済寺がポイントになっている。普済寺の六面石幢については、実際に触るのではなく、写真により計測したとのことである。

(事務局) 近世部会では、古代・中世部会と合同で、月2軒のペースで文書の所在調査を行っている。柴崎地区の資料編を先に出すことから、これまで柴崎地区での所在調査を行ってきたが、砂川地区についても入り始めたところである。蔵の調査も1軒行い、50点ほどの文書を寄贈していただいた。近世の文書は1点だけで、ほとんどが近現代のものであった。部会は、年4回開く予定で、これまでに3回開催した。継続して、須崎家文書と鈴木家文書の調査を行った。市民協働作業として、月1回「立川の史料を読む会」を開催した。メンバーは、公私日記研究会の皆さんが中心。これまで培ってきた深い知識を活用させていただくことを目的に、協働作業を進めている。4月以降は、月1回、第3金曜日にリスルホールの会議室を会場に活動を続けていく。それから、後ほど詳しく報告するが、3月22日に「鈴木家文書目録」が納品された。

(事務局) 近代部会では、永年保存書庫にある近代部会に関連する文書と歴史民俗資料館に保管される歴史的公文書のデジタル化が、昨年10月末に完了した。現在は、編集委員がそれをもとに、資料編に掲載する候補資料のリスト作りを進めている。併せて、必要な史料の入力作業を、主任調査員が行っている。2月末の時点で、83点の史料の入力作業が終了している。そのほか、東京日々新聞の府下版について、昭和3年から同10年までの主要記事の調査と複写が完了した。市外になるが、邸田丹陵と府立二中に関する資料が、日の出町の旧家に保管されていることが分かったので、借用し、撮影した後、返却した。その他、東京日々新聞については、主要記事の入力を進めている。東京都公文書館で、主任調査員により府立二中に関連する資料の調査を行って

いる。これについては、3月末もしくは4月の早い段階で、第一弾の成果が挙がってくる見込みである。また、資料編2の編集方針や史料の選び方の再検討を行っている。その他、資料整理作業として、N家文書の整理やI家、鈴木家、M家の写真資料を整理し、デジタル化と細目録の作成が済んでいる。今年1月からは、近世部会とともに、錦町の旧家から搬出した文書調査も行っている。新年度においては、引き続き、編集委員により、公文書の調査検討を進めていく。事務局では、東京日々新聞府下版の昭和11年から昭和20年までの主要記事の調査と複写を進めていく。4月8日に部会を予定しているが、ここでは、資料編2の目次案を検討する予定である。また、N家文書については、整理箱で150箱ほどもあるので、少しずつ整理を進めていく。

(委員) 邨田丹陵の資料は、どのような内容のものか。

(事務局) 日の出町のH家に保管されていたもの。このH家は、砂川源五右衛門の奥さんが出た家である。砂川家の敷地内に楽々荘を造ったとき、材木を提供した。材木の代金を絵で支払うという書簡や、大政奉還の図をそろそろ仕上げたいとH氏に書き送っている史料などである。大政奉還の図を、邨田丹陵は砂川で描いているということがはっきりと書かれている。

(委員) 関東大震災で被災した邨田丹陵を、砂川源五右衛門が引き受けて、砂川に住ませたと聞いている。見影橋は、邨田丹陵が設計したということで、完成した際に地元の人と一緒に撮った写真があるはずという話を聞いたことがある。その写真はあるのか。

(事務局) その写真については、いまのところ確認が取れていない。

(委員) 私の知り合いも持っているので、必要なら提供してもらうことができるだろう。大政奉還の図は、金毘羅山の家で描かれたようなので、その家を何とか保存できないものかと思っている。

(事務局) 現代部会では、資料編1の刊行に向けて、歴史民俗資料館や永年保存書庫にある公文書の調査を進めてきた。その他、米軍関係資料の調査として、外務省外交史料館や国会図書館において、占領期の外交文書の調査を行った。別に、横田基地で立川基地時代の米軍関係資料を引継いでいないか問合わせたところ、写真数点があるという連絡があったので、伺って写真をDVDに焼いたものをいただってきた。部会は、9月、12月、3月の3回開催し、資料編1の仮構成案や掲載候補史料の報告を行った。同時併行で、米軍資料担当者の会議も開いた。資料調査の進捗状況の確認や資料編1の掲載候補史料の報告を行った。その他、N家文書の整理や元市議会議員のS・Eさんの調査で、娘のKさん宅を訪問し、家族がまとめたSさんに関する文献をいただいた。今後の予定としては、公文書の調査・撮影作業を継続するほか、米軍関係資料の調査を引き続き行っていく。また、平成31年度末に予定している資料編1の刊行に向けて、部会会議や米軍資料担当者の会議を開催して、掲載候補史料のリストアップやそれらの入力作業を本格的に行う。加えて、来年度刊行予定の地図・絵図編のコラムの執筆に向けた準備を進めていく。

(委員) 米軍関係資料の範囲を教えてください。

(事務局) 軍事、基地はもとより、GHQ／SCAPについて幅広く対象とする。生活や住民に関するものも含まれる。

(事務局) 民俗・地誌部会では、平成31年度に予定している柴崎地区を対象にした資料

編の刊行に向けて、柴崎地区を中心に調査を進めてきた。これまで富士見、柴崎、錦町を調査し、今後、曙、高松、羽衣を調査する計画を立てている。今年度の調査の成果としては、柴崎町一丁目にある柴一八幡会の公会堂から、諏訪神社の祭礼や獅子舞の棒使いに関する資料を発見したことが挙げられる。今後、これらの整理等を継続していく。砂川地区に関しては、少ないながらも調査を継続している。来年度は、普済寺の念仏講の調査や自治会へのアンケート調査を予定している。また、砂川青年団に関する調査報告書の刊行を予定している。

(委員長) 民俗・地誌部会では、柴崎地区を中心とした聞き取りや祭礼調査と砂川地区の青年団の調査を主軸に活動してきたとのことである。これまでの各部会の報告に対し、確認したいことなどがあればお話を聞きたい。

(委員) 古墳調査について、どのような調査を行い、どのような成果が挙げられたのか。

(事務局) 今回行った調査は、沢の稲荷等の測量調査である。まず墳丘の形を押さえようということで行ったものである。データが膨大であるため、具体的な成果をお示しするには、もう少し時間がかかる。

(委員) 地下のレーダー探査は行ったのか。

(事務局) 今回は行っていない。レーダー探査を行うためにも、まず形を把握することが必要である。

(委員長) 先日開催した立川市史編集委員会議で、先史部会長から、今の姿になる前の沢の稲荷の写真がないかと聞かれた。

(副委員長) 近代部会では、東京日々新聞府下版を非常に利用しようとする方向になっているようだが、現代部会では、新聞の活用について何か考えはあるのか。

(事務局) 昨年度は、主に市の広報課が作成した新聞のスクラップの撮影作業を、調査員が進めた。また、東京日々新聞府下版についても、該当する部分の撮影作業は終了している。

(委員) 立川の歴史にとって、立川飛行場と立飛（立川飛行機株式会社）の関係は外せない。調査は行っているのか。

(事務局) 現代部会では、貸借対照表や株主総会の資料など、会社の経営状況に関するものがある大学に保管されているということなので、それを見ることができないか、部会で話題にしている。具体的な動きは、まだない。

(委員) 立飛は、急速に大きくなった。特に、砂川地区の用地買収がどのように行われたのか、興味のあるところである。現在、立川で最大の地主である立飛が、どのような経過で短期間に大きくなったのか、明らかにすることが望まれる。

(委員) 全国の企業の営業報告書がデータベースで見ることができる。前の年度になるが、近代部会では、全期間ではないが、石川島飛行機製作所時代から立飛になって以降の営業報告書について、収集できるものは収集した。新聞資料や役場文書の中にも、立飛に関する資料もあるので、それらについても収集している。大正時代末から昭和前期にどのように移り変わっていったのか、近代部会として、大きなテーマとして取り組んでいきたい。立飛の会社内に何か資料が残っていないかと、以前から問合せているが、今のところはっきりしない。また、社報については、たましんの財団が古書で買ったものや部会員が購入してくれたものなど、戦前期のものはかなり揃っており、手元で見られる状態になっている。

(委員長)立飛については、近代部会、現代部会とも大事な問題であると思うので、引き続き留意願いたい。

3 鈴木家文書目録の刊行について（資料2）

(事務局)書名について、これまで仮称として「新編立川市史」という名称を使用してきた。これについては、特に反対意見もないことから、正式にこの名称を使っていくこととしたい。

(事務局)去る3月22日に納品された。発行部数は600部。4月3日から1部1,000円で、市役所本庁の市政情報コーナーと歴史民俗資料館で販売する。近世柴崎村の名主を務めた鈴木家から寄贈された5,301点と寄託分991点合計6,292点の文書の目録である。寄贈分については、立川市歴史民俗資料館で保管されてきたものを、今回、市史編さんで目録編成を行ったものである、寄託分については、昭和39年に一度、目録が資料集として発行されている。今回、寄贈分と寄託分を再整理して刊行したものである。中身については、近世部会の調査員を中心に、ていねいに調査したので、良いものができたと思っている。仕様書の作り方が今後の課題である。表紙の色については、所蔵者に選んでいただいた。

(委員長)お手元の鈴木家文書目録の表題に、「新編立川市史調査報告書」とある。この「新編立川市史」という名称については、委員の皆さまにすでに連絡したものであるが、この名称を付けた初めての刊行物ができた。内容は、近世部会が担当してまとめた文書目録である。

(委員)編集後記に、「今後も調査報告書の形で文書目録の刊行を継続していく」と記載されているが、これはどのような意味か。

(事務局)鈴木家からは、今回目録にしたもの以外に、新たに寄贈されたものが1,000点ほどあり、何かの機会に刊行したいと考えている。

(委員長)鈴木家文書は、柴崎地区における最大の文書群であると思われる。

4 市史編さん広報紙「たちかわ物語 VOL. 5」の発行について

(事務局)お手元に配布した「たちかわ物語」第5号は、2,500部印刷し、3月20日に発行した。市内の小中学校や歴史民俗資料館、学習館等に配布した。内容は、まず小坂新委員のあいさつがあり、特集については、近世部会特集として、鈴木文書目録を取上げている。それに合わせて、市史の作り方ということで、目録って何だろうという記事を、イラスト入りで市民向けに分かりやすく掲載している。資料を読むのコーナーでは、関連講演会の講師をお願いした、古代・中世部会の鎌倉部会長に「立川文書に見る中世の立川氏」を執筆いただいた。最後に、資料収集に関する呼びかけを行っている。今後も、市史編さん事業を広く市民に周知するために、この広報紙を活用していきたい。第6号は、平成30年の9月に発行する予定となっている。市史編さん委員の皆さまには、全員からお言葉をいただきたいと思いますので、第6号以降に大友委員と保坂委員に執筆していただきたい。

(委員長)4, 5ページの文書目録の作り方については、個人的には授業に使いたいという気がしている。6, 7ページの鈴木文書目録のところでは、目録の項目の編成を樹系図で表しており、とても分かりやすい。鎌倉部会長が執筆した8ページ以降につい

ても、力作であり、後ほどお読みいただきたい。

5 平成 29 年度立川市史編さん関連講演会の開催について

(事務局)この関連講演会は、平成 27 年度から始め、今回で 3 回目となる。去る 3 月 11 日（日）午後 2 時から、女性総合センターの第 3 学習室で開催した。募集人数 50 人のところ 47 人の参加があり、ほぼ満席の状態であった。先史部会の谷口康浩部会長から「向郷遺跡と多摩の中期縄文文化」、古代・中世部会の鎌倉佐保部会長から「鎌倉時代の立川氏」と題し、ともに最新の学術成果を踏まえながら、一般市民向けにとっても分かりやすくお話しいただいた。当日、参加者のアンケート調査を行ったが、とても興味深かった、よく理解できたというような回答が圧倒的に多かった。講師からは、もう少し大きな会場で、募集人数を多くして実施しても良かったのではないか、もう少し宣伝に力を入れた方が良かったのではないかというようなご意見もいただいた。次年度以降も、市史編さん事業の成果に合わせて、関連講演会を開催していく予定である。

(委員)谷口先生のお話がとても面白かった。資料の発見や学際的な研究の進捗によって、当初少数派であった縄文農耕論が一般的に認められるようになった過程が分かった。新たに資料が発見されたり、研究が深まったりすると、当然歴史のとらえ方が変化する。市史には、それらをどの程度反映させるのかが気になった。時代によっては、対立する理論がある。市史は学術書ではないので、それを詳説する必要はないのだが、評価の定まっていないことの記述は避けるとか、時代や史実によって判断するなど、いろいろな選択方法があると思う。立川市史としては、どのように進めるのか。

(委員長)今のご意見については、編集委員会にお伝えすべきことであると考えて。今後、具体的にいろいろな問題が出てくると、課題になってくるものだろう。なかなか難しい問題である。各部会長が集まる編集委員会に報告する。

6 資料編「地図・絵図編」の刊行について（資料 3）

(事務局)お手元の資料 3 に示したものが、現段階の章立てである。昨年 8 月に編集委員会会議で章立て案を議論した際に、近世の砂川部分の絵図がないとの指摘を受けた。その後、砂川地区の絵図の収集に努めたが、該当する絵図を得ることができなかった。そこで、来年度に発行する地図・絵図編については、近世を切り離し、近現代で刊行することとしたいと考えている。近世については、引続き収集を行い、その状況を見て、地図・絵図編の近世編として刊行するか、近世の資料編に加えるかを検討していきたいと考えている。近代、現代の部分については、これまで示してきたものと変わりはない。第 1 章が近代。章解説の後、第 1 節が「明治初期の立川・砂川」で、10 点の資料を掲載する。第 2 節は「甲武鉄道の開通と立川・砂川」ということで、15 点の資料を掲載する。第 3 節は、「都市化する立川・農村としての砂川」で、13 点の資料を掲載する。以上、第 1 章では、38 点の資料の掲載を予定している。第 2 章が現代になる。章解説があり、第 1 節が「敗戦から立川・砂川の合併まで」で、24 点の資料を掲載する。第 2 節は「駅南口区画整理のはじまりからと立川基地の返還まで」ということで、11 点。第 3 節は、「立川基地返還後の新たなまちづくり」で、15 点の資料を掲載する。第 2 章は、50 点の掲載となる。第 3 章は、立川・砂川地図目録。コラムに

については、各節の最後にまとめている。執筆は、近代、現代各部会の編集委員にお願いしている。体裁は、A4版、ヨコ2段組、上製本、4色カラー印刷、現段階で215ページ。付録のDVDについては、予算の関係で、当初予定していた地番検索や地点解説等の機能を付与するのは厳しい状況である。基本的には、本文に掲載した全体のもののPDFと本編では小さくなって見られないものをPDFで拡大して見られるような地図データを収録して、DVDとして付録にしたいと考えている。今後のスケジュールとしては、この3月に章立てを確定し、それぞれの部会でコラムの内容の確定・執筆し、9月中に入稿、平成31年3月刊行を考えている。本文とコラムページの割付案を回覧する。本文については、地図と100～200字程度の説明文が掲載される。説明文は、事務局が執筆する。それに、トレース図と現況図が加わる。コラムのページについては、字数は、1,000字程度で、写真や図表を加えるものをイメージしている。

(委員長) これまでに示されてきたものと大きく変わったのは、近世を削除したことである。その理由は、柴崎地区の近世の絵図はあるが、砂川地区の絵図が入手できなかったことによる。そのため、近代と現代で地図・絵図編を構成することになったということである。それと、予算の関係で、付録のDVDについて、当初予定していた機能の一部を除いて収録するという点である。

(委員) 今回収録を断念した砂川地区の絵図が入手できた場合、発行することは可能か。

(事務局) 地図・絵図編の近世編として刊行するか、近世の資料編に加えるかは今後検討することになるが、何らかの形で刊行したいと考えている。

(委員) 年月日等の表記について、和暦と西暦をどのように表記するのか

(事務局) 和暦（西暦）で統一する。

(委員) 和暦がわかるような表記を工夫してもらいたい。

(委員長) 編集委員会にも、その旨をお伝えする。

(副委員長) 見本にある明治時代の絵図は、南を上になっている。現況図についても、同じ向きに掲載しないと分かりにくい。

(委員) 見本の絵図は、北を上にとすると、文字がさかさまになる。そのあたりをどうするか。

(委員) 柴崎地区の絵図にも、そのようなものがある。

(委員長) 江戸時代の絵図は、南が上のものが一般的である。

(委員) 絵図には、説明が付加されるのか。見本の絵図は、砂川における水田を造る計画図である。米に対する砂川の人々の強い願望が表れている。そのようなことが分かる説明がほしい。

(委員長) 今すぐここで結論を出せるものではないが、今後、具体的な編集作業の中で十分考慮すべき問題である。

(委員) 現代の地図についても、トレースで文字などをつけるのか。

(事務局) 現代の地図については、著作権や許諾の問題もあるので、そのまま掲載することを考えている。

(委員) 全ページにわたって、説明と地図が付くのか。

(事務局) 複数のページにまたがるようなものの中には、全面地図だけというものもあるが、基本的にはそれぞれの地図に説明文と現況図が付く。

(委員)地図は、なるべく大きく掲載してもらいたい。

(委員)砂川の中野家から出た絵図は、たいへん大きなものであるが、どのように掲載するのか。

(事務局)24 ページを使って、分割して掲載する。

(委員長)中野家の絵図は、この会議室ぐらいある大きなもので、そもそもそれを本に掲載するのに無理がある。それを読めるようにするために、DVDに収録して、付録にしようと考えたものである。全容を紙の上で見られるようにし、数字等はDVDにし、読めるようにしようとした経緯がある。

(委員)利用の手続きは、もう終わっているのか。

(事務局)一部終わっていないものもある。

(委員)DVDについては、購入した人しか見ることができないのか。歴史民俗資料館に行けばPDFを開いて見せてもらうことはできるのか。

(事務局)図書館などにおいてあるものを見ることはできる。

(委員)中野家の絵図について、当時の家は五日市街道沿いにしかなかったのか、この絵図により、江戸時代からの家の位置がはっきり分かる。五日市街道沿いの家並みが分かるような掲載の仕方を工夫できないか。

(事務局)今回の地図・絵図編の方針の一つに、全図で時代の移り変わり、立川のまち並みがどう変わっていったかをたどることがある。コラム等でも言及すると思う。

(委員長)柴崎地区についても、同様な問題がある。それについては、今後の編集作業で考慮願いたい。

(副委員長)近代のところで、立川飛行場図があるが、これは昭島市側のものも載っているものか。

(事務局)それほど詳細なものではない。立川駅や西立川駅等の施設の位置関係が分かる程度で、機関名等の書込みはない。

(副委員長)海軍水路部で、機関名を書き込んだ地図を作っている。

(事務局)海軍水路部の作成した地図については2枚あり、閲覧はしたが、1枚は、かなり細かい青焼きの図で、複写が難しかった。また、もう一枚の図は、綴じ込みであった。飛行場の図については、昭和5年の飛行第五聯隊配置図がある。

(副委員長)昭和5年の地図には、飛行第五聯隊だけしかないが、昭和18年の地図になると、西側にいろいろな機関が並んでいる。それならば、戦後、米軍が来てこうなると、一目瞭然に対比することができる。

(委員長)より状態の良い地図があるなら、情報提供いただきたい。

7 平成30年度市史編さん事業予定について（資料4）

(事務局)まず、市史編さん委員会は、8月に第9回、平成31年3月に第9回の開催を予定している。それに合わせて、編集委員会議を、8月と2月に第8回と第9回を開催したいと考えている。刊行物については、初めての資料編である「地図・絵図編」がある。5月以降に制作委託の契約を行い、6月以降デジタル化を進め、10月に入稿、3月刊行を予定している。報告書については、先史編1として、向郷遺跡竹内勇貴氏寄贈資料調査報告書を刊行する。8月に契約、9月に入稿し、3月に刊行する予定である。もう1冊、調査報告書として、民俗・地誌部会から、砂川青年団の資料集を刊

行する。こちら、8月に契約、9月に入稿する。刊行は、1月を予定している。広報紙「たちかわ物語」については、第6号を9月、第7号を3月に発行する。市民協働事業の「立川の史料を読む会」については、月1回第3金曜日に開催する。市史編さん関連講演会は、歴史民俗資料館と共催で開催する。8月頃までにテーマを決定し、1月19日（土）の多摩郷土誌フェアに合わせて実施する。

(委員) 青年団についての報告書は、砂川の青年団に関するものだけなのか。立川の青年団については、何か資料はあるのか。

(事務局) 来年度に刊行するものについては、砂川青年団に関するもののみである。

(事務局) 立川の青年団については、ほとんど調査されていない、資料もない状況である。

(委員) どこかで立川の青年団についても取上げる必要があると考える。

(委員長) このご意見については、民俗・地誌部会の部会長にお伝え願いたい。これまでに、何かご意見などあれば。

(委員) 鈴木文書については、立派な目録ができたが、一般の方が閲覧することは可能なのか。

(事務局) 一部については、閲覧は可能である。

(委員) 収集した資料について、市史を編さんする者だけで利用していくのか、収集された段階から見せていくように取り組んでいくのか。

(事務局) 鈴木家文書については、歴史民俗資料館で保管している資料であるので、資料館の対応となる。資料館としては、現在閲覧できないものについても、閲覧できるように努めていくとのことである。市史編さんが保管する資料については、まだ目録はできていないが、まず整理をしてから、その後に閲覧等に対応していきたいと考えている。

(委員長) 歴史民俗資料館では、資料館で所蔵する役場文書等の文献の閲覧に関する規程を作った。

(委員) 資料を受け入れる際に、市史編さんでも利用することと、資料館でも公開することも承諾を得れば、広く市民にも見てもらえるようにできる。

(事務局) 市史編さんで資料の寄贈を受ける際は、今後の市の事業等で公開することも含めて承諾書をいただいている。

(委員) 地図・絵図編の見本として付けられた地図は、玉川上水の分水である砂川分水の水量が増やされる根拠となった地図であると思われる。

(事務局) 事務局へ情報をお寄せ願いたい。

(副委員長) 市史編さんで収集した資料については、適宜公開するようにしてもらいたい。

(事務局) ある程度資料の整理を行った後に公開することとしたい。

8 その他

(事務局) 3月末で、近代の専門嘱託の清水と現代の専門嘱託の森脇、再雇用嘱託の岡部の3人の嘱託が交代となる。

(事務局) この4月で異動することとなった。立ち上がりから関わらせていただいた。今後も応援、協力していきたい。大変お世話になりました。

(事務局) 3次回会議については、ひとまず8月28日（火）午後1時30分からと考えているので、よろしく願いたい。

(委員長)この日程で都合が悪いようなら、改めて調整することとしたい。

<終了 午後3時 15 分>